

令和5年度 文化庁 日本語教育人材の研修プログラム普及事業

地域日本語教育コーディネーター研修報告

実施機関名	一般社団法人 多文化社会専門職機構
事業名	地域日本語教育コーディネーター研修プログラム普及事業
研修実施地域	南関東ブロック・近畿ブロック
事業実施期間	令和5年5月8日～令和6年3月15日
研修受講者数及び 研修修了者数	地域日本語教育コーディネーター研修受講者52名、修了者51名 総括コーディネーター研修受講者12名、修了者12名

■ 事業概要

■ 事業目的

多文化社会専門職機構(TaSSK)は多文化社会の問題解決に寄与する専門人材を輩出することを目的に、多文化社会コーディネーター研修および認定プログラムを実施している。TaSSKがこれまでに実施してきたコーディネーター研究および認定プログラムでの知見を生かし、全国2ブロックで研修を実施する。その目的は次の3点である。

1. 自治体施策・国際交流協会事業・市民活動等の現場で、地域日本語教育コーディネーターとして地域日本語教室を運営することができる人材を育成する。
2. 「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」における総括コーディネーターを主な対象者として想定し、地域日本語教育の体制づくりを推進するとともに、地域日本語教育コーディネーターを育成するための力量形成を図る。
3. 研修用の動画教材の制作により研修実施のための資源を開発し、研修を持続的に実施できるようにする。

TaSSKが描く地域日本語教育コーディネーター像は、多文化共生社会形成に向けて、多様な人や組織との連携・協働を推進し、プログラム(活動)を構築・展開・推進する専門職である。また、日本語教育に関する知識・技能を有し、現場の状況変化に応じて関係する人びととリフレクティブに意思決定を行い、行為を決めていく専門職である。当機構の研修ではそのような人材を育成するために、知識・技能はもとより、参加者どうしで実践の省察(振り返り)をすることを研修の軸に位置付けて展開する。

■ 事業概要

■ 事業内容の概要

1. 概要・特徴

多文化社会および地域日本語教育に関する基礎研修をオンライン(オンデマンド動画配信)で実施する。また、受講者の実践の振り返り(省察)による研修会をブロックごとに実施する。その実施方法は集合型による対面研修とオンライン(ビデオ会議システム)の両方で実施する。TaSSKには地域日本語教育を専門とする研究者・実践者だけではなく、コーディネーター論および日本語教育以外の多文化社会を専門領域とする研究者・実践者が在籍することから、多様な観点から研修プログラムを企画・実施することができることが特徴である。

2. 体制

- ① 検討委員会：統括組織として検討委員会を置く。本委員会で事業全体の設計、プログラム検討、教材開発、評価方法等の決定を行う。検討委員会の下部組織として研修実施チームを置く。
- ② 研修実施チーム：南関東ブロックチーム、近畿ブロックチームの2チーム体制とし、各チームはファシリテーター、コーディネーター、外部協力者数名で構成する。
- ③ 検討委員会の決定に基づき、評価委員会を置く。評価委員会は本機構社員以外の専門家を半数以上含む委員で構成する。
- ④ TaSSK事務局にて本事業の事務取扱を担う。

■ 事業概要

3. 研修プログラムの概要

○育成する人物像：

地域日本語教育を多文化共生社会の実現に向けたシステムとして位置付け、多様な人や組織との連携・協働を推進してプログラムを運営できる人物を育成する。

○教育理念：

地域日本語教育の多様なありようを踏まえ、知識伝達型の研修を一部導入しつつも、受講者どうしの省察を軸とした相互学習を研修の中心とする。

○カリキュラム・教材等：

受講者は「夏期研修Ⅰ」において、オンデマンド配信による講義動画を視聴し、コーディネーターに求められる知識を学ぶ。夏期研修Ⅱ～冬期研修ではコーディネーターに求められる技能・態度を学ぶための演習を計画し、そのためのカリキュラムを策定する。

○人員体制：

日本語教育、コーディネーター論などを専門とするTaSSK社員で主に組織する検討委員会にて、事業全体の設計、プログラム検討、教材開発、評価方法等の決定を行う。

○実施方法：

TaSSKに所属する多様な領域の多文化社会専門人材を生かし、多文化社会や地域日本語教育にかかわる基礎知識の習得をオンラインで実施するとともに、実践を踏まえた省察の場づくりを対面（オンライン同時双方向、あるいは直接対面）で行うことで、コーディネーター育成・普及を図る。

■ 事業概要

4. 研修実施結果

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

夏期研修Ⅰ	2023年7月20日(木)～8月20日(日)	(オンデマンド動画配信)
夏期研修Ⅱ(東日本)	2023年8月28日(月)10:00-17:00	(オンライン)
(西日本)	2023年8月30日(水)10:00-17:00	(オンライン)
秋期研修(東日本)	2023年11月10日(金)10:00-17:00	(対面)
(西日本)	2023年11月17日(金)10:00-17:00	(対面)
冬期研修(東日本)	2024年2月5日(月)10:00-17:00	(オンライン)
(西日本)	2024年2月6日(火)10:00-17:00	(オンライン)

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

夏期研修Ⅰ	2023年7月20日(木)～8月20日(日)	(オンデマンド動画配信)
夏期研修Ⅱ	2023年8月28日(月)10:00-17:00	(オンライン)
秋期研修	2023年11月13日(月)10:00-17:00	(対面)
冬期研修	2024年2月16日(金)10:00-17:00	(オンライン)
フリーディスカッション	2023年12月26日(火)20:00-21:30	(オンライン)
	2024年1月24日(水)20:00-21:30	(オンライン)
実践モニタリング	2024年1月9日(火)14:00-15:30	(オンライン)
	2024年1月23日(火)13:00-14:30	(オンライン)

■ 事業概要

4. 研修実施結果

- フォローアップ研修 2023年10月20日(金)10:00-17:00 (対面)
- TaSSKにほんごカフェ 2023年9月22日(金)13:00-14:00 (オンライン)
2023年10月4日(水)19:00-20:00 (オンライン)
2024年1月10日(水)19:00-20:30 (オンライン)
2024年1月17日(水)19:00-20:30 (オンライン)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

1. 目的

地方公共団体、国際交流協会、地域の日本語教室等で日本語教育プログラムの編成・実施及び日本語教育プログラムの実施に必要な地域の関係機関との連携・調整に携わる日本語教育人材を育成する。

2. 内容

下記(1)～(6)のカリキュラムを策定し、地域日本語教育コーディネーターを育成する。(1)～(5)については講義形式により、知識伝達型の研修を行う。研修内容は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改定版』(文化審議会国語分科会)で示された「地域日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」、「教育内容」、「教育課程編成の目安」および『地域における日本語教育の在り方について(報告)』(文化庁)に沿って、検討委員会が検討した内容をもとに実施する。(6)については、受講者各自の実践の振り返り(省察)を協働で行うことを主な内容とする。

(1)多文化共生施策における地域日本語教育(講座)

(2)地域日本語教育の体制整備に向けたコーディネーターの役割(講座)

(3)日本語教育に関わる人材の育成(講座)

(4)地域日本語教育活動における情報の管理(講座)

(5)地域日本語教育のプログラムデザイン(講座) ※令和5年度応募にあたって新設

(6)地域日本語教育のプログラムデザインおよび実施(実践研究演習)

(7)「生活者としての外国人」に対する日本語教師【初任】研修の概要(講座) ※令和5年度応募にあたって新設

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

3. 対象者

次の全てに該当する人。地方公共団体(都道府県及び市区町村(教育委員会を含む))、国際交流協会※、または社会福祉協議会の推薦を受けている人を優先。

- ①日本語教育に関する専門的な教育を受けていること。
- ②地域日本語教育分野での経験を有すること(1年以上を目安とする)。
- ③本研修期間で必修とする全ての日程を受講可能であること(フォローアップ研修を除く)。
- ④地方公共団体・国際交流協会・大学、日本語教育機関、NPO法人等において日本語教育プログラムの編成及び実践に携わっていること。
- ⑤地域日本語教育プログラムの実施に必要な地域の関係機関との調整に携わっていること。
- ⑥研修への参加に当たっては、実践活動の場を有することを必須とし、本研修の実践活動について事前に代表者及び関係者の承諾を得られること。

※ ここで言う「国際交流協会」とは、①地方公共団体が設立した、②地方公共団体が事務局を務める、③地方公共団体から協会運営の委託等を受けている、④地方公共団体の施設の指定管理を行う法人及び団体のいずれかに該当し、かつ地域における国際交流、多文化共生、外国人支援等に関する事業を行うものを指す。

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

4. 定員

原則として東日本地域・西日本地域で各30名(本研修の目的等を考慮の上、選考を行う。)

5. 修了要件

①本研修で必修と定める研修への8割以上の出席。

②実践活動計画、実践活動報告書等の研修で求める資料の提出。

③研修期間中に求める振り返りフォームの提出。

修了者には修了証を授与するとともに、修了者一覧を文化庁およびTaSSKウェブサイトに掲載する。

6. 修了者

東日本地域 21名(受講者22名)

西日本地域 30名(受講者30名)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

7. スケジュール

東日本地域

夏期研修Ⅰ 【必修】	期間： 内容：	令和5(2023)年7月20日(木)～8月20日(日) オンデマンド配信による講義動画の視聴 東日本・西日本地域共通
夏期研修Ⅱ 【必修】	期間： 場所：	令和5(2023)年8月28日(月)10:00-17:00 オンライン(ビデオ会議システムを利用)
実践活動期間	期間： 内容：	令和5(2023)年9月～令和6(2024)年2月 各自の課題設定・実践活動計画に基づく活動期間
フォローアップ研修	期間： 場所：	令和5(2023)年10月20日(金)10:30-17:00 TKP田町カンファレンスセンター(東京都港区芝)
秋期研修 【必修】	期間： 場所：	令和5(2023)年11月10日(金)10:00-17:00 神田カンファレンス・ルーム(東京都千代田区神田錦町)
冬期研修 【必修】	期間： 場所：	令和6(2024)年2月5日(月)10:00-17:00 オンライン(ビデオ会議システムを利用)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

7. スケジュール

西日本地域

夏期研修Ⅰ 【必修】	期間: 内容:	令和5(2023)年7月20日(木)～8月20日(日) オンデマンド配信による講義動画の視聴 東日本・西日本地域共通
夏期研修Ⅱ 【必修】	期間: 場所:	令和5(2023)年8月30日(水)10:00-17:00 オンライン(ビデオ会議システムを利用)
実践活動期間	期間: 内容:	令和5(2023)年9月～令和6(2024)年2月 各自の課題設定・実践活動計画に基づく活動期間
フォローアップ研修	期間: 場所:	令和5(2023)年10月20日(金)10:30-17:00 TKP田町カンファレンスセンター(東京都港区芝)
秋期研修 【必修】	期間: 場所:	令和5(2023)年11月17日(金)10:00-17:00 KITENA新大阪(大阪府大阪市東淀川区東中島)
冬期研修 【必修】	期間: 場所:	令和6(2024)年2月6日(火)10:00-17:00 オンライン(ビデオ会議システムを利用)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

8. 研修内容および講師・ファシリテーター

夏期研修 I

講義1	多文化共生施策としての地域日本語教育 講師:文化庁国語課
講義2	出入国管理施策及び多文化共生施策 講師:出入国在留管理庁
講義3	地域日本語教育コーディネーターの役割 講師:菊池哲佳(多文化社会専門職機構・仙台観光国際協会)
講義4	地域日本語教育のプログラムデザイン①ー教育目標・人・学習活動 講師:萬浪絵理(多文化社会専門職機構・千葉市国際交流協会・国際活動市民中心)
講義5	地域日本語教育のプログラムデザイン②ー生活Candoに基づく日本語教育プログラムデザイン 講師:関崎友愛(日本語サービスYOU&I)
講義6	地域日本語教育のプログラムデザイン③ー地域日本語教育における教材活用 講師:文化庁国語課・国際交流基金
講義7	地域日本語教育のプログラムデザイン④ープログラムの点検・評価・改善 講師:札幌寛子(国際高等専門学校)
講義8	日本語教育に関わる人材の育成① 講師:伊東祐郎(多文化社会専門職機構・国際教養大学専門職大学院)
講義9	日本語教育に関わる人材の育成② 講師:加藤早苗(インターカルト日本語教員養成研究所)・新居みどり(国際活動市民中心)
講義10	活動と広報①ー情報公開・発信 講師:我妻潤子(東京藝術大学非常勤講師・株式会社テイクオーバー知的財産アナリスト)
講義11	活動と広報②ー地域日本語教育における広報 講師:土井佳彦(多文化社会専門職機構・多文化共生リソースセンター東海)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

8. 研修内容および講師・ファシリテーター

夏期研修Ⅱ、秋期研修、冬期研修(東日本地域)

夏期研修Ⅱ	令和5(2023)年08月28日(月)10:00-17:00
	- 先進的な地域日本語教育コーディネーターによる実践事例を基に、グループ毎に課題設定等や計画についての分析を行う。 - 地域課題の解決に向けて地域日本語教育プログラムの策定を含めた実践計画を作成する。
フォローアップ研修	令和5(2023)年10月20日(金)10:30-17:00
	- 地域日本語教育に関する国の施策の方向性などについて理解を深める。 - 演習を通じて修了年度や地域を超えたネットワーキングを図る。
秋期研修	令和5(2023)年11月10日(金)10:00-17:00
	- 夏期研修Ⅱで設定した実践課題について中間報告を行い、他の受講生やファシリテーターからコメント・助言を受ける。 - 活動への取り組み方やコーディネーターの役割について再度見直しを行った上で、実践の継続及び冬期研修で発表を行うための準備をする。
冬期研修	令和6(2024)年02月05日(月)10:00-17:00
	- 実践活動の成果を発表し、相互に学ぶ。 - 夏期研修Ⅰ、実践活動、秋期研修を通して学んだコーディネーターに必要な能力について理解を深める。

ファシリテーター

菊池哲佳・高柳香代・土井佳彦・長尾晴香・萬浪絵理(多文化社会専門職機構)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

8. 研修内容および講師・ファシリテーター

夏期研修Ⅱ、秋期研修、冬期研修(西日本地域)

夏期研修Ⅱ	令和5(2023)年08月30日(水)10:00-17:00
	- 先進的な地域日本語教育コーディネーターによる実践事例を基に、グループ毎に課題設定等や計画についての分析を行う。 - 地域課題の解決に向けて地域日本語教育プログラムの策定を含めた実践計画を作成する。
フォローアップ研修	令和5(2023)年10月20日(金)10:30-17:00
	- 地域日本語教育に関する国の施策の方向性などについて理解を深める。 - 演習を通じて修了年度や地域を超えたネットワーキングを図る。
秋期研修	令和5(2023)年11月17日(金)10:00-17:00
	- 夏期研修Ⅱで設定した実践課題について中間報告を行い、他の受講生やファシリテーターからコメント・助言を受ける。 - 活動への取り組み方やコーディネーターの役割について再度見直しを行った上で、実践の継続及び冬期研修で発表を行うための準備をする。
冬期研修	令和6(2024)年02月06日(火)10:00-17:00
	- 実践活動の成果を発表し、相互に学ぶ。 - 夏期研修Ⅰ、実践活動、秋期研修を通して学んだコーディネーターに必要な能力について理解を深める。

ファシリテーター

菊池哲佳・高柳香代・土井佳彦・長尾晴香・萬浪絵理(多文化社会専門職機構)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

研修の様子(オンデマンド講義動画)

4. 生活Candoを参照する際の留意点



- 「生活 Can do」に挙げられている言語行動は、日本語学習者が日本語でできるようにならない行為の一覧ではない。また、網羅的なものではない。
- 日本語学習は Can do で示した言語活動のみで進められるものではない。

それぞれの地域の状況や
学習者のニーズに応じて
生活Candoを**取捨選択・追加**する

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

研修の様子(秋期研修)



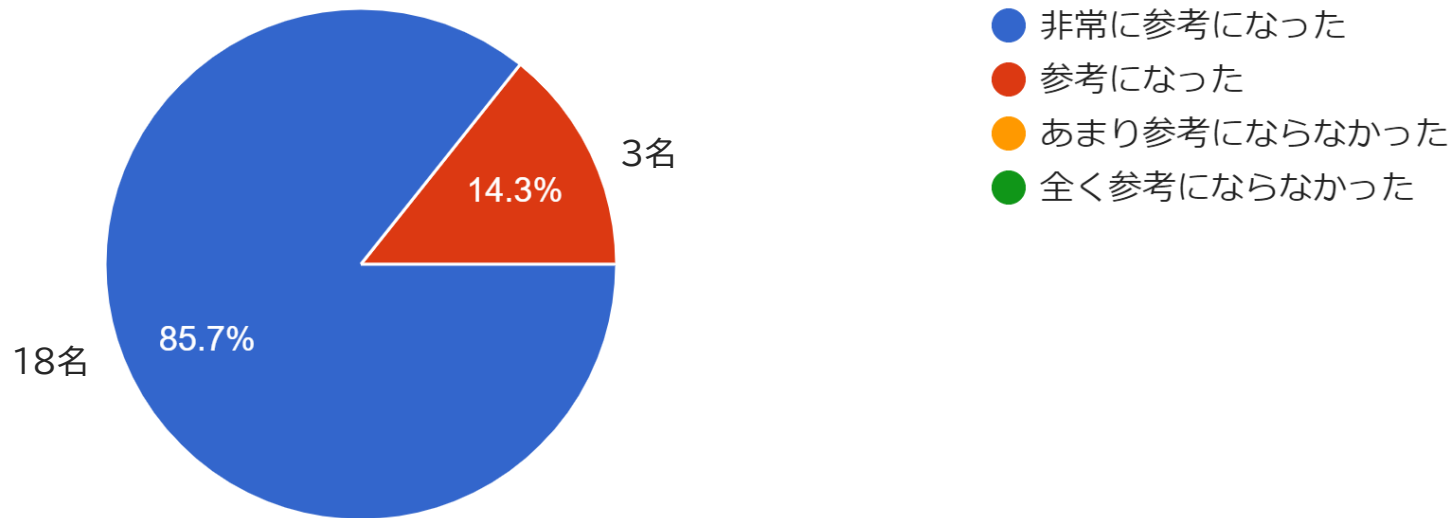
■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

アンケート結果からの一部抜粋(東日本地域)

Q.1 冬期研修を受講していかがでしたか。

21件の回答



■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

アンケート結果からの一部抜粋

Q5. 地域日本語教育コーディネーター研修の、全ての研修を受講してのご意見・ご感想がありましたら、お願いします(研修内容、運営体制等)

(東日本地域)

「自身の活動を言語化して整理し、お伝えする大変貴重な機会になりました。」

「夏の研修前の講義が動画で行っていただいたので、何回も見返すことができて良かったです。秋の研修では、直接、お会いして対話ができたので関係づくりにつながりました。もう一回ぐらい、直接、みなさんとお会いしたりできる機会があると、更に、深いつながりや情報共有ができたかな…と思います。どうもありがとうございました。」

「対面とミックスで進むことで、最終回に一番話しやすい空気になっていたり、これまでの経緯を知っていることで相手の発表の背景等を想像しやすかったりする効果があると感じました。みなさんと知り合えてうれしかったです。私にはレベルの高すぎる研修だなと感じていて、職場で言われて仕事として参加した側面も少しあったのですが、終わってみると、自分の仕事の進め方や態度を捉えなおすいい機会になりました。」

「非常に学び多き研修でした。事務局、ファシリテーターを務めてくださったTaSSKの方々の働きに深く感謝いたします。みなさん本務もある中、参加者の資料に目を通しコメントをまとめることはかなりのご負担だったことと思います。有益なコメント、助言をたくさん頂きました。また意見交換を通して気付きがたくさんありました。ありがとうございました。」

「本研修が今年度より所属機関からの推薦がなくても参加可となったと伺いましたが、コーディネーター配置の必要性を認識していない自治体で活動する支援者の方や教師の方々にコーディネーターの役割について学んだり考えたりするチャンスが与えられたことはよいことだと思います。立場の異なる方との意見交換から学ぶことは多く、私にとっても非常によい経験となりました。一方で、参加者同士の議論の中で「コーディネーターの役割」について立場の違いによる互いの視点の違いに戸惑う方もいらっしゃるように見受けられました。」

「立場の異なる方々と同じ方向を向いて進むためにどのような話をしていけばよいか、本研修でも学んだ気がします。ありがとうございました。研修で使われる言葉が抽象的で難しく感じ、何を求めてられているのか理解し、自分の中に落とし込むまでにとても時間がかかった。実践していく中で次々と生まれてくる新たな問題点を明確に認識し、同時に抱えている問題について、解決のヒントや視点を変えるきっかけをたくさんいただいた。自分や団体を客観視し評価する貴重な機会の連続でした。最後の研修は対面で、できれば終わった後に交流できる時間を取っていただけたら、さらによかったです。」

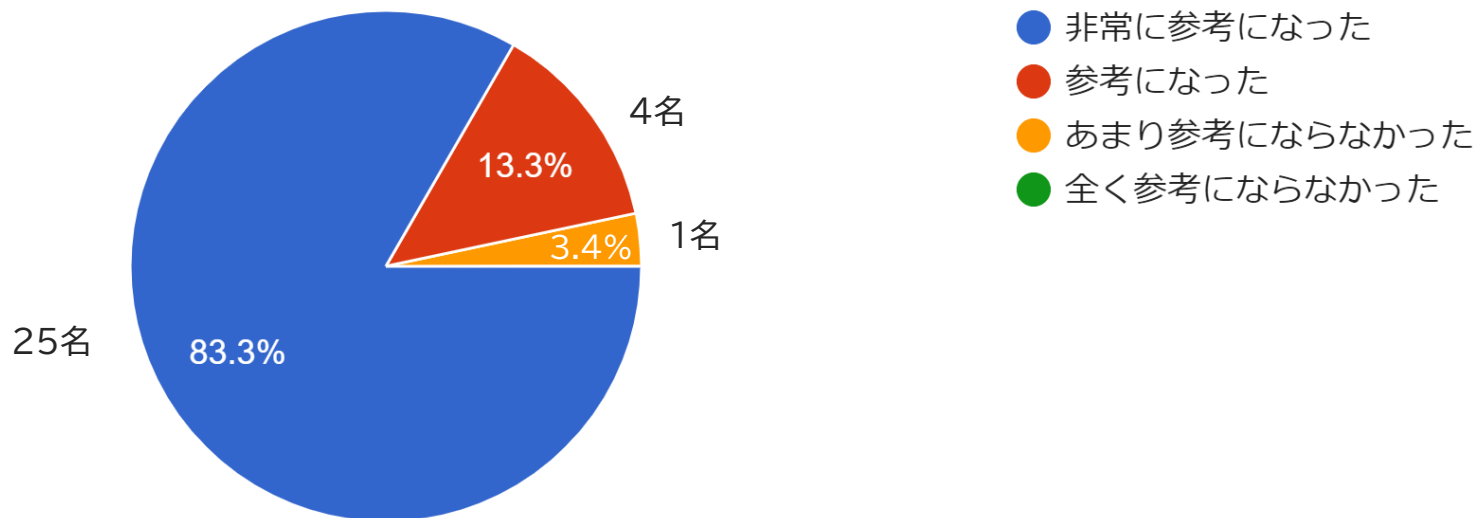
■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育コーディネーター研修

アンケート結果からの一部抜粋(西日本地域)

Q.1 冬期研修を受講していかがでしたか。

30件の回答



■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育コーディネーター研修事業

アンケート結果からの一部抜粋

Q5. 地域日本語教育コーディネーター研修の、全ての研修を受講してのご意見・ご感想がありましたら、お願いします(研修内容、運営体制等)

(西日本地域)

「フォローアップ研修やメーリングリストでこれからもつながっていると有難いです。」

「初めは一人でできるのか不安でしたが、研修を受けたことでCDとしての役割が分かり、行動に移す自信ができました。所属先への働きかけもでき、ようやくスタートラインに立てたところです。今後とも指導よろしくお願いいたします。」

「自分で考えて頑張らなければならないことがとても力になったと思います。的確なアドバイスをいただけて前に進むことができました。ありがとうございました。リクエストするとしたら(もう研修は終わったけど)、もう少しこまめに相談したりアドバイスをいただくような機会があっても良かったと思います。地域日本語コーディネーターとは、という点で、多様な実践や考えがあることはもちろん理解できますしそれが良かったと思いますが、その先に見ているものが違うと思うことがありました。」

「来年度は総括コーディネーター研修に参加したいと思っています。」

「多様な立場や経歴の方が参加されているので、実践内容も様々で興味深かった。参考になる人もいれば、遠い存在すぎてあまり共感できない人もいたが、それも含めて多文化・多様性だと感じる。また、いつか視察旅行に行きたいと思える団体が各地にできた。」

「ファシリテーターの先生方はいつも優しく否定されないが、的確なアドバイスをくれるので安心して話すことができた。」

「夏期研修の「評価」の講義を受けるまでは、何かを発表するときにはそれまでに結果を出さなければならない、成果を上げなければならないとプレッシャーに感じていたが、何も進展がないように見えてもそれはそれで評価の対象になると知って(捉えて?)、かなり気が楽になった。が、都合の良いように捉えているだけな気がするので、もう一度復習したい。」

「毎回とても充実した研修をしていただき、感謝します。県レベルでの地域日本語教育コーディネーターの研修をしてほしいというような声もありますが、私の県の現状ではこんなに充実した研修はまだできません。来年度もこういった研修があれば、県内の人材を育てるためにも、ぜひ参加してもらえよう、案内しようと思います。」

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

1. 目的

文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」における総括コーディネーターを主な対象者として想定し、地域日本語教育システムの構築、「地域日本語教育コーディネーター」※1 育成などの取組みを通じて、多文化共生社会の形成に寄与する人材（「総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター」）の育成を目的とし、研修を実施する※2。

※1「地域日本語教育コーディネーター」とは、地方公共団体、国際交流協会、地域の日本語教室等で日本語教育プログラムの編成・実施、及び日本語教育プログラムの実施に必要な地域の関係機関との連携・調整に携わる日本語教育人材をいう。

※2 本研修では、「総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター」を、多文化共生社会の形成に向けて、市民や関係機関・団体と連携・協働しながら地域日本語教育システムの構築を図るとともに、地域日本語教育コーディネーターの育成等を通じて、地域日本語教育の総合的な体制づくりを推進する人と位置付けている。

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

2. 内容

参加者、協働研修者が協働で実践の振り返り(省察)を行うこととする。協働での振り返りを通じて、参加者が各地域の実践現場で地域日本語教育コーディネーターを育成するためのカスケード研修(省察の場づくり)を担うことができる力量形成を図る。

コースカリキュラムは、夏期研修Ⅰ、夏期研修Ⅱ、秋期研修、冬期研修、モニタリングで構成される。夏期研修Ⅰは、オンデマンドの動画配信視聴により、知識伝達型の研修を行う。

- ①多文化共生施策における地域日本語教育
- ②地域日本語教育の体制整備に向けたコーディネーターの役割
- ③日本語教育に関わる人材の育成
- ④地域日本語教育活動における情報の管理

夏期研修Ⅱ、秋期研修、冬期研修は、参加者と協働研究者による実践研究を行う。参加者が、本研修と同等の研修を実施する際に企画・運営者及び講師として求められる、地域日本語教育のコーディネートに対する助言・指導の能力を育成する。手法としては、協働実践研究の形をとり、本研修参加者が課題設定を行い、地域日本語教育コーディネーター研修受講者を育成する上で前提となる参加者自身のコーディネート能力を見直し、さらに育成することとする。

モニタリングは、夏期研修Ⅱ以降に、随時実施する。モニタリングでは伴走型支援・助言の一環として、共同研究者は参加者の参加者の現場に赴き、モニタリング(現状分析、省察)を行う。これを通じ、参加者自身のコーディネート能力をブラッシュアップするとともに、助言指導の前提となる参加者自身のコーディネート能力を向上させる。

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

3. 対象者

次の全てに該当し、地方公共団体(都道府県及び政令指定都市(教育委員会を含む))、地域国際化協会※3 が推薦する人。

- (1)本研修の参加及び研修受講中の取組内容に対し、所属団体や事業関係者の協力を得られること。
- (2)文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」において総括コーディネーター※4 を務めている(または今後就任予定)、あるいは都道府県または政令指定都市による域内複数個所における日本語教育事業の運営において中心的な業務を担っている(または今後担当予定)こと。
- (3)研修終了後、都道府県または政令指定都市による事業の一環で、地域日本語教育コーディネーターの育成について、OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)等を通じて実施できるようになることが見込まれること。
- (4)「4. 研修期間」で【必修】とする全ての日程を受講可能であること(フォローアップ研修を除く)。
- (5)研修への参加に当たっては、総括コーディネーターを想定した実践活動の場を有することを必須とし、本研修の実践活動について事前に代表者及び関係者の承諾を得られること。

※3 ここで言う「地域国際化協会」とは、総務省の指針に基づき県等が作成した「地域国際交流推進大綱」に位置づけられた、地域の国際交流を推進するにふさわしい中核的民間国際交流組織を言う。

※4 「総括コーディネーター」は、地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業において地域日本語教育コーディネーターと連絡を取りながら、域内全体の司令塔の役割を担う。具体的には、推進計画の策定や見直し、その実施状況の把握、他の行政分野や関係者との調整、各地域への指導・助言などの役割を想定する。

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

4. 定員

8名(本研修の目的等を考慮の上、選考を行う。)

5. 修了要件

①本研修で必修と定める研修への8割以上の出席。

②実践活動計画、実践活動報告書等の研修で求める資料の提出。

③研修期間中に求める振り返りフォームの提出。

修了者には修了証を授与するとともに、修了者一覧を文化庁およびTaSSKウェブサイトに掲載する。

6. 修了者

12名(受講者12名)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

7. スケジュール

夏期研修Ⅰ 【必修】	期間： 令和5(2023)年7月20日(木)～8月20日(日) 内容： オンデマンド配信による講義動画の視聴
夏期研修Ⅱ 【必修】	期間： 令和5(2023)年8月29日(火)10:00-17:00 場所： オンライン(ビデオ会議システムを利用)
実践モニタリング	令和5(2023)年9月～令和6(2024)年1月 ・ 伴走型支援・助言の一環として、受講者、協働研究者、関係者で、モニタリング(現状分析、省察)を行う。 ・ モニタリングを通じ、受講者はコーディネーターとして課題解決に取り組むとともに、コーディネーターとしての専門的力量形成を図る。
フォローアップ研修	期間： 令和5(2023)年10月20日(金)10:30-17:00 場所： TKP田町カンファレンスセンター(東京都港区芝)
秋期研修 【必修】	期間： 令和5(2023)年11月13日(月)10:00-17:00 場所： 神田カンファレンス・ルーム(東京都千代田区神田錦町)
冬期研修 【必修】	期間： 令和6(2024)年2月16日(金)10:00-17:00 場所： オンライン(ビデオ会議システムを利用)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

8. 研修内容および講師・ファシリテーター

夏期研修 I

講義1	多文化共生施策としての地域日本語教育 講師:文化庁国語課
講義2	出入国管理施策及び多文化共生施策 講師:出入国在留管理庁
講義3	地域日本語教育コーディネーターの役割 講師:菊池哲佳(多文化社会専門職機構・仙台観光国際協会)
講義4	地域日本語教育のプログラムデザイン①ー教育目標・人・学習活動 講師:萬浪絵理(多文化社会専門職機構・千葉市国際交流協会・国際活動市民中心)
講義5	地域日本語教育のプログラムデザイン②ー生活Candoに基づく日本語教育プログラムデザイン 講師:関崎友愛(日本語サービスYOU&I)
講義6	地域日本語教育のプログラムデザイン③ー地域日本語教育における教材活用 講師:文化庁国語課・国際交流基金
講義7	地域日本語教育のプログラムデザイン④ープログラムの点検・評価・改善 講師:札幌寛子(国際高等専門学校)
講義8	日本語教育に関わる人材の育成① 講師:伊東祐郎(多文化社会専門職機構・国際教養大学専門職大学院)
講義9	日本語教育に関わる人材の育成② 講師:加藤早苗(インターカルト日本語教員養成研究所)・新居みどり(国際活動市民中心)
講義10	活動と広報①ー情報公開・発信 講師:我妻潤子(東京藝術大学非常勤講師・株式会社テイクオーバー知的財産アナリスト)
講義11	活動と広報②ー地域日本語教育における広報 講師:土井佳彦(多文化社会専門職機構・多文化共生リソースセンター東海)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

8. 研修内容および協働研究者

夏期研修Ⅱ、秋期研修、冬期研修(西日本地域)

夏期研修Ⅱ	令和5(2023)年8月29日(火)10:00-17:00 ・ 受講者と協働研究者による協働実践研究を行う。受講者はそれぞれの現場での課題解決に必要なコーディネーターとしての実践の視点を考察する。
実践モニタリング	令和5(2023)年9月～令和6(2024)年1月 ・ 伴走型支援・助言の一環として、受講者、協働研究者、関係者で、モニタリング(現状分析、省察)を行う。 ・ モニタリングを通じ、受講者はコーディネーターとして課題解決に取り組むとともに、コーディネーターとしての専門的力量形成を図る。
フォローアップ研修 講義・演習	令和5(2023)年10月20日(金)10:30-17:00 ・ 地域日本語教育に関する国の施策の方向性などについて理解を深める。 ・ 演習を通じて修了年度や地域を超えたネットワーキングを図る。
秋期研修	令和5(2023)年11月13日(月)10:00-17:00 ・ 演習1(夏期)で設定した実践課題について中間報告を行う。
冬期研修	令和6(2024)年2月16日(金)10:00-17:00 ・ 実践活動の成果を発表し、相互に学ぶ。 ・ 演習1(夏期)、実践活動、演習2(秋期)を通して学んだコーディネーターに求められる役割・専門性について理解を深める。

協働研究者

菊池哲佳(多文化社会専門職機構・仙台観光国際協会)、小山紳一郎(多文化社会専門職機構・SIDラボ)、土井佳彦(多文化社会専門職機構、多文化共生リソースセンター東海)、山西優二(多文化社会専門職機構・早稲田大学)、犬飼康弘(ひろしま国際センター)、新矢麻紀子(大阪産業大学)、仙田武司(しまね国際センター)

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

研修の様子(秋期研修)



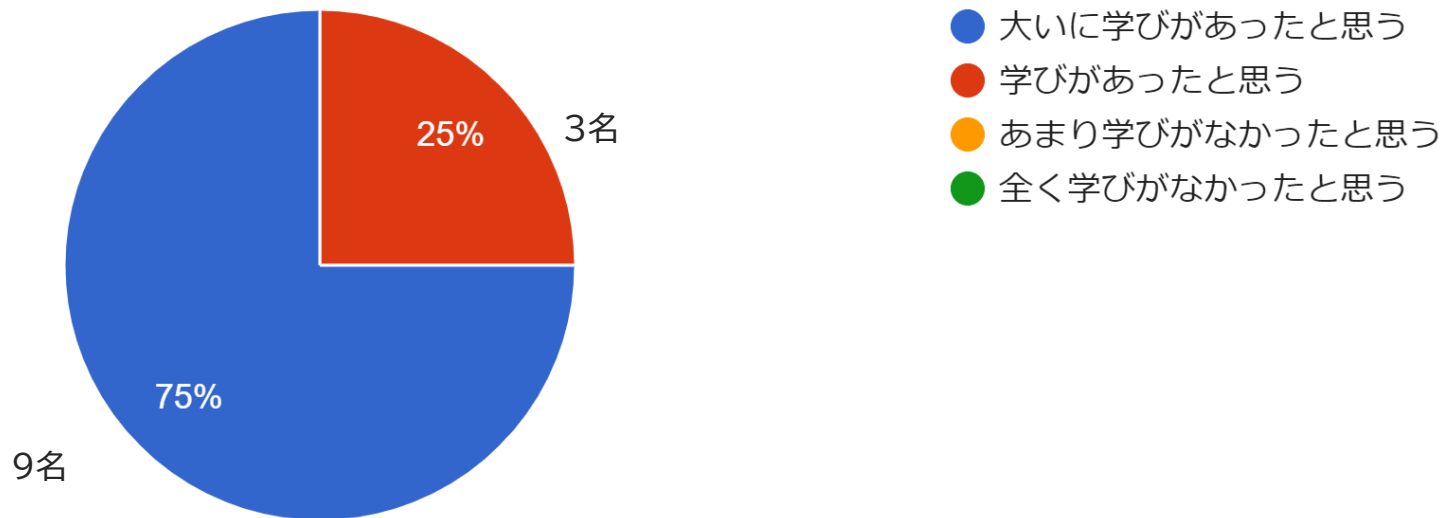
■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

アンケート結果からの一部抜粋

Q.1 冬期研修において、学びや気づきがありましたか。

12件の回答



■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

アンケート結果からの一部抜粋

Q5. 地域日本語教育コーディネーター研修の、全ての研修を受講してのご意見・ご感想がありましたら、お願いします(研修内容、運営体制等)

「運営のみなさま、ありがとうございました。おかげさまで、大変に良い経験をする事が出来ました。」

「フォローアップ研修など研修以外のサポート制度があり、大変手厚いと感じました。ありがとうございました。対面の機会がもう1回あるといいなと思いました。」

「座学としての動画視聴は、業務の合間でできるので便利だが、知識として定着しているかどうかはあやうい。Zoomでの自由な意見交換の機会は、ぜひ利用したかったが、時間の都合がつけにくかった(業務を終えた後の調整が億劫だったり、繁忙期だったりした)。対面、Zoomの研修は大変有意義だった。コーディネーター同士でつながりをつくる機会は貴重で、東京都でやっているような、コーディネーター同士の情報交換会があればぜひ参加したいと思う。」

「全国の事情がわかって、本当に勉強になりました。ありがとうございました。『多文化社会と実践研究』の発行が後で決まったのかもしれませんが、来年度は書式を最初にご指示いただけると無駄がないと思います。」

「オンライン研修の良さもちろんありますが、やはり対面の方が活発な意見交換ができると感じました。秋期研修は、固すぎない雰囲気が発言しやすかったです。お茶効果や周りのみなさんのお人柄もあったと思いますが、終始和やかで身構えることなく参加することができました。場づくりの大切さを感じました。」

「日常業務と並行しての研修は、ときに大変な時期もありましたが、協働実践研究者・TaSSK事務局の皆様が、細やかに企画・準備していただいたおかげで気づきの多い機会となりました。カフェやモニタリングなどもお声かけいただきながら、十分に活用できなかったことは残念でした。」

■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修

アンケート結果からの一部抜粋

Q5. 地域日本語教育コーディネーター研修の、全ての研修を受講してのご意見・ご感想がありましたら、お願いします(研修内容、運営体制等)

「研修内容は途中でカフェ等もはさみつつ、充実していた。対面式の講座でみなさんとお話できたことも良かったです。その後、受講生間で連絡を取らせていただいて事業推進に役立ちました。1つだけ強いて挙げるとするなら、最後の実践レポートの形式が参加者によって理解の幅があったので、事前に受講生に詳細等を共有できたら良かったかもしれないと感じました。全体的に運営のみなさんに本当に感謝しています。集中して研修に望めました。また研究者の先生方にも前向きになるアドバイスと多くの気づきをいただきました。」

「全体を通して、たいへん勉強になりました。グループ活動もとても良かったです。もっと多くの地域のかたとお話しできる機会があると良かったなとも思います。協働実践研究者のみなさまのお話しももっと聞きたかったです。」

「文化庁への意見ですが、今回のような研修は学びがあるとは思いますが、忙しい担当者にとって負担が大きく、参加できる方が限られると思います。また情報共有は一度行って終わりにするものでもないかと思います。こういった研修とは別に、総括コーディネーター全員が、できれば対面で情報共有や意見交換ができる、毎年参加できる機会があるとありがたいです。地域日本語教育コーディネーターとは立場が異なり相談したいことも違うため、総括コーディネーターだけでの機会があればと思います。」

「オンデマンド教材の作成・配信から全3回の研修の企画、運営、この間の事務手続き等丁寧な対応を行っていただいたTaSSKの皆様に感謝申し上げます。まだまとめきれっていませんが、研修参加をとおり、今後の取組について多角的な視点から見直し・学びなおしをしていけそうです。アドバイザーの助言や同じ研修へ参加したコーディネーターのみなさんとの出会い・交流も貴重なものとなりました。研修途中に自由参加のオンライン交流時間を設けていただくなど(参加者が少なかったとはいえ)柔軟に対応いただいた事務局のみなさんにもお礼申し上げます。一点次年度工夫いただけるとありがたいのは、研修開始から最終レポートまでの時間が半年と短く、テーマを掘り下げる時間がなかったことです。参加者自身も日ごろの仕事で忙しいところではありますが、現場での課題をテーマにすることが多いことや伴走者としてのアドバイザーの方とより関われる時間的余裕があるとさらに改善できることがあると思えば、工夫いただけると助かります。」

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーターフォローアップ研修

1. 目的 地域日本語教育コーディネーター研修修了生及び2023年度地域日本語教育コーディネーター研修受講生を対象に、地域日本語教育に関する情報・研修機会を提供するとともに、各研修コースの枠を超えたネットワーキングの機会を提供する。
2. 日時 2023年10月20日(金)10:30-17:00
3. 場所 TKP田町カンファレンスセンター(東京都港区芝5-29-14田町日エビル)
4. 対象 地域日本語教育コーディネーター研修修了生(2010～2022年度)
地域日本語教育コーディネーター研修受講生(2023年度)
5. 内容 ①文化庁における日本語教育施策について(文化庁国語課)
②講演:市民活動と行政の協働—コーディネーターの視点から
(早瀬昇氏(特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会理事))
③地域日本語教育ラウンドテーブル
④全体振り返り・講評
6. 参加 79名

■ 各研修の概要

■ 地域日本語教育コーディネーターフォローアップ研修

研修の様子



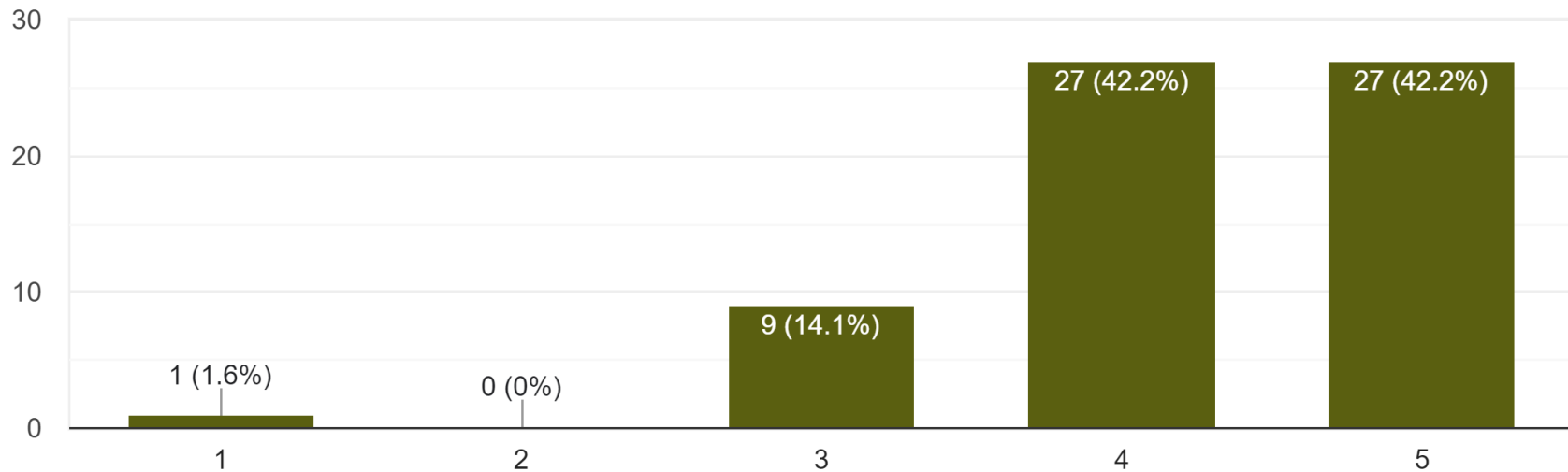
■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育コーディネーターフォローアップ研修

アンケート結果からの一部抜粋

”「文化庁における日本語教育施策について」石澤徹氏（文化庁国語課 日本語教育推進室 日本語教師養成研修専門官）”はいかがでしたか。

64 件の回答



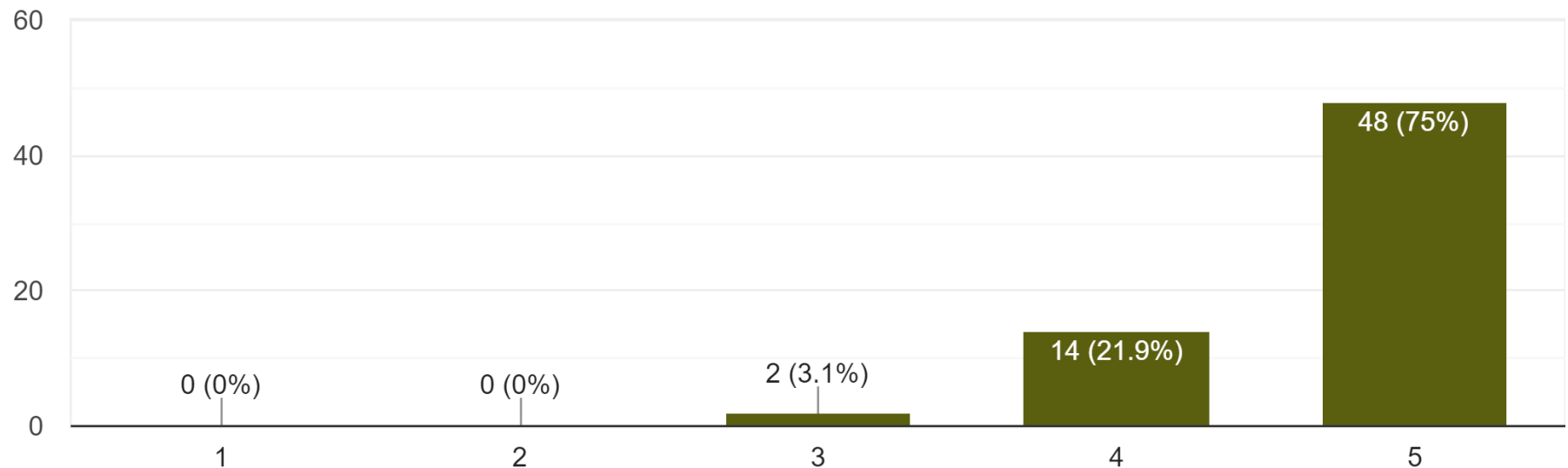
■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育コーディネーターフォローアップ研修

アンケート結果からの一部抜粋

”市民活動と行政の協働—コーディネーターの視点...ディネーター協会理事））”はいかがでしたか。

64 件の回答



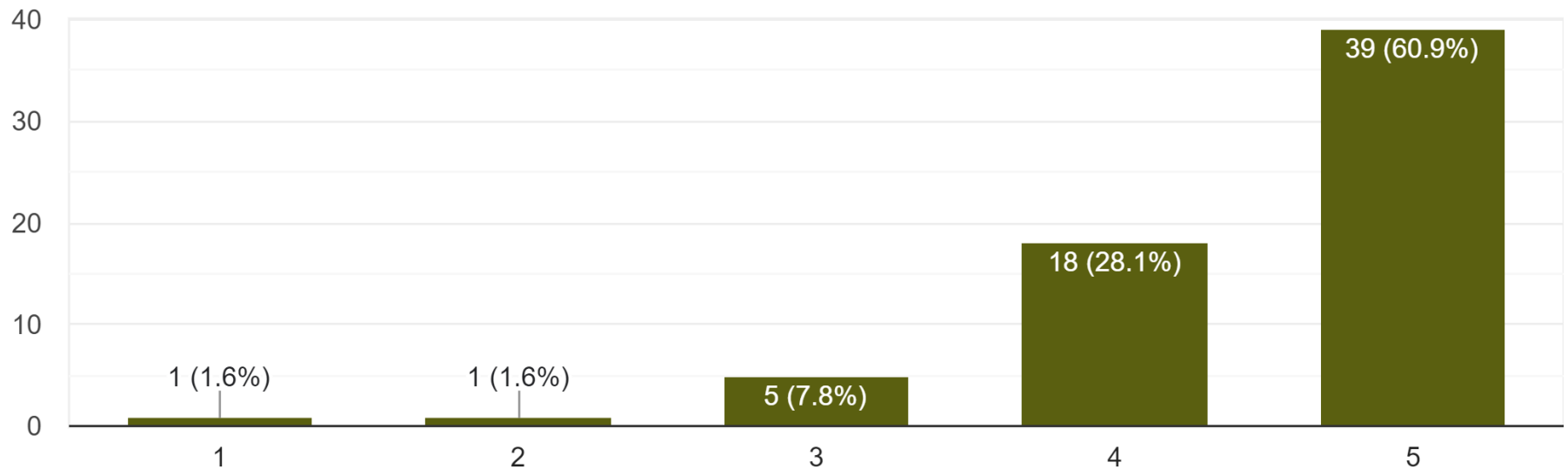
■ 受講生からの評価

■ 地域日本語教育コーディネーターフォローアップ研修

アンケート結果からの一部抜粋

“地域日本語教育ラウンドテーブル”はいかがでしたか。

64 件の回答



■ 各研修の概要

■ TaSSKにほんごカフェ

1. 目的

地域日本語教育に関する情報・意見交換の場として、また地域日本語教育コーディネーターのネットワーキングの機会としてオンラインサロンを実施した。

2. 実施日時

2023年9月22日(金)	13:00-14:00
2023年10月4日(水)	19:00-20:00
2024年1月10日(水)	19:00-20:30
2024年1月17日(水)	19:00-20:30

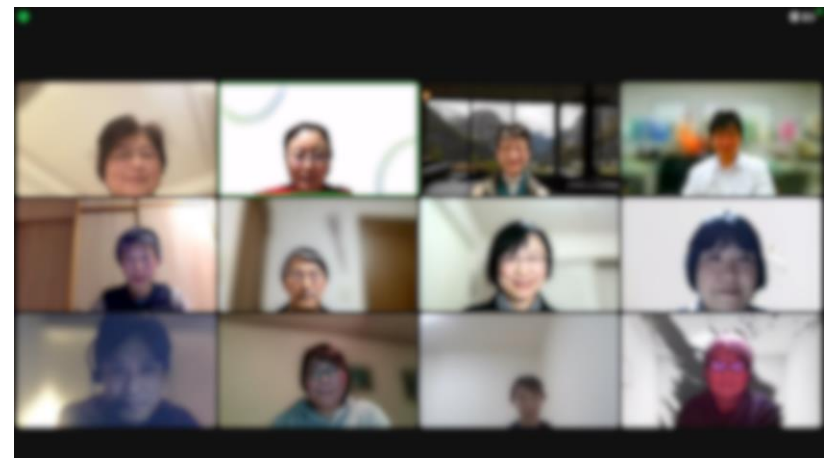
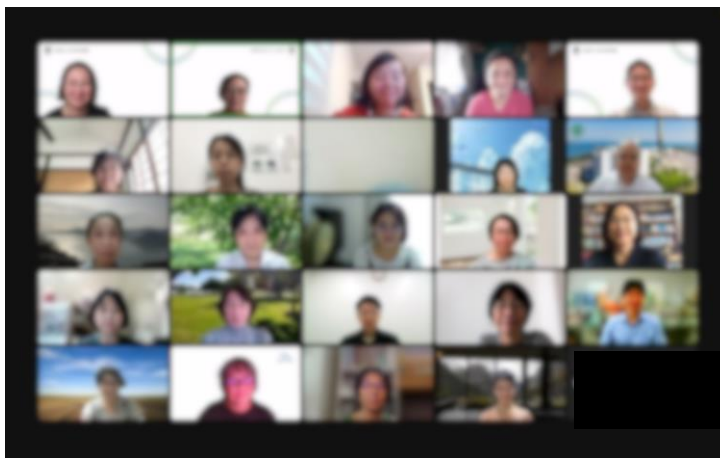
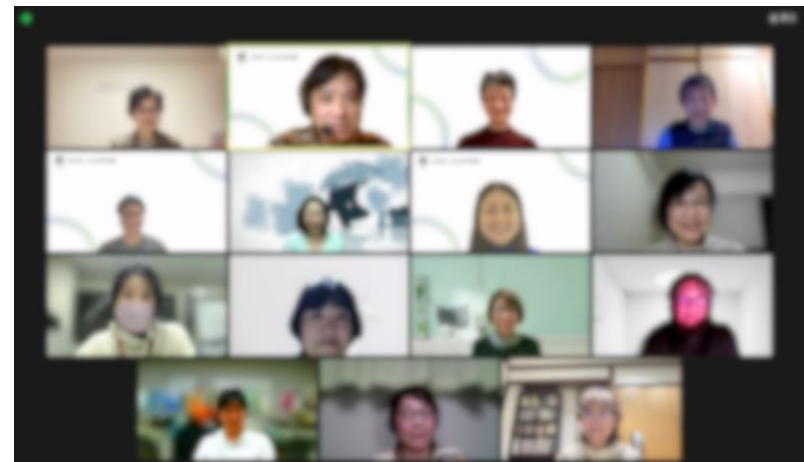
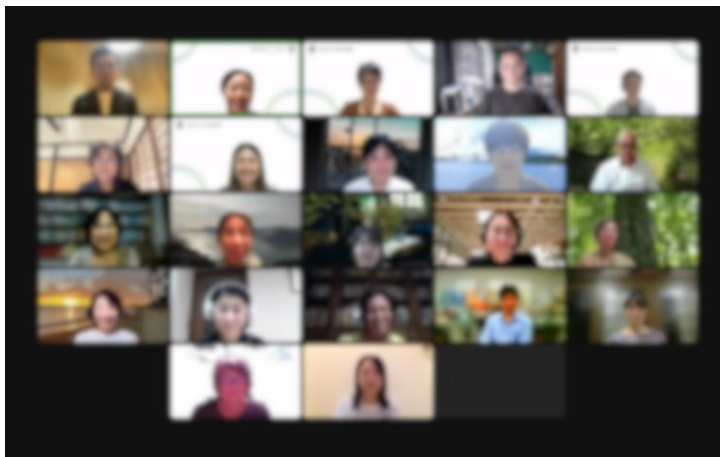
3. 実施方法

ビデオ会議システムを利用

■ 各研修の概要

■ TaSSKにほんごカフェ

研修の様子



■ 成果と課題

- 令和5年度は TaSSKとして3か年度目の実施となった。これまでの実施経験と課題を踏まえて概ね計画通りに実施することができた。
- 令和5年度は秋期研修およびフォローアップを対面での実施とした。受講者の満足度が高く、また対面実施による研修効果も高かったと考えられる。一方で、全ての研修を対面とすることは、実施者および研修参加者の負担を考えると難しい。今後の実施においても、オンラインを併用しつつ、対面研修を一部導入することが望まれる。
- 文化庁における日本語教育人材の養成・研修の在り方に関する議論を踏まえ、オンデマンド配信の講義内容を一部改訂した。具体的には、生活Candoに基づく日本語教育プログラムデザイン、プログラムの点検・評価・改善に関する講義を新たに組み込んだ。このことによって地域日本語教育コーディネーターに求められる日本語教育プログラムデザインに関する知識・技能を研修内で示すことができた。しかし、現場の実践に即して学ぶ機会が十分に提供できていないことが課題となった。今後は演習形式で日本語教育プログラムデザインについて学ぶ機会を検討する必要がある。
- コーディネーター立場が自治体、国際交流協会、市民団体、日本語学校など多様化している実態を踏まえ、令和5年度の実施にあたっては対象者の要件を緩和ところ、コーディネーターとしての経験や、本研修に期待することに、受講者間で振れ幅がある状況が見受けられた。今後は、行政の施策として地域日本語教育を推進するコーディネーターとしての役割を、募集段階から明確に提示することを検討する必要がある。
- コーディネーターを設置する自治体職員向けの情報提供・研修機会の充実も図るべき、との過年度の評価委員会における意見を踏まえ、コーディネーターの役割に関する情報発信や研修の機会をこれまで以上に検討する。具体的には、地域日本語教育の総合的な体制づくり推進のためのコーディネーター研修における実践モニタリングの一層の活用を図ることなどを検討する。

■ 成果と課題

評価委員からの意見

- ・ 実施主体の丁寧な対応やノウハウが今後も継続されることを期待する。
- ・ 事業内容が、年度を重ねるたびに改善されていると感じている。フォローアップやモニタリングなどきめ細やかな対応を評価したい。
- ・ 地域日本語教育コーディネーターにはわかりやすく伝えていける形にしている、自律的に考えていける能力が必要だと思われ、その資質・能力を育成することを今後も期待したい。
- ・ オンライン講義動画は特に充実した内容であるので、受講者・修了者以外にも動画講義視聴とか、科目等履修できる方法があると良いのではないか。その際には、視聴後アンケート回答を求めるなどの条件を与えても良いだろう。
- ・ 本研修事業の事務局、実施体制そのもののあり方も、多文化社会をどうデザインしていくかということつながっていくと思われる。その点を今後も意識してほしい。
- ・ 現場と施策とのジレンマについて、現場を応援しつつ、本施策の実施者である文化庁まで現場の声を届けることが本研修にも期待されていると考える。